

小麦フル活用による水田自給飼料の利用拡大を検討

－麦のわらはは牛の飼料に、子実は鶏の飼料に利用します－

小麦の「わら」と「子実」を家畜の飼料としてフルに活用するため、低コストな収穫・調製・貯蔵方法と飼料の利用性を検討する研究を開始しました。

小麦の収穫は梅雨時期となるため、麦わらは天日乾燥が難しく家畜の飼料としてほとんど利用されていません。そこで、コンバインで刈取った麦わらは乾燥せずにミニロールベアラーで円筒形に成型し尿素添加した後ラッピングする方法で、収穫した子実はそのままプロピオン酸などを添加する方法で貯蔵しました。



収穫した小麦の「子実」

コンバインで
「子実」を収穫



「麦わら」ロールに尿素溶液を添加

口蹄疫の防疫対応を継続的に実施

当所では、宮崎県で続発している口蹄疫の防疫対応として、定期的な消毒槽の薬液交換や消石灰の追加散布など口蹄疫ウイルスの侵入防止に努めています。

また、舞鶴市、綾部市で放牧中のレンタカウとサポートカウの健康観察を定期的に行うとともに放牧牛の管理者には口蹄疫の発生状況などの情報を提供しています。



消石灰の散布



放牧牛の健康観察

放牧場からの汚水流出防止試験を開始

和牛放牧の拡大は、耕作放棄地対策の観点からも期待されていますが、降雨時には、放牧場からの汚染物質の流出が懸念されます。

そこで、当所では、放牧場からの汚染物質の流出を防止するため、流出水のモニタリングと汚水分離ができるシステムの研究を開始しました。



試験ほ場で和牛雌牛の放牧を開始

来春用の牛飼料(飼料用トウモロコシ)を準備

—炭酸同化作用で年間2.5トン/10アールのCO₂回収を目指す—

当所では、来春から牛に給与する飼料用トウモロコシ7haの播種が完了しました。近年、春の低温や夏の少雨など不順な天候が続いており、今回の播種開始は例年より約2週間遅れとなりました。このような気候の影響を緩和し安定収量を確保するため、収穫の早い品種と遅い品種をより幅広く組み合わせ、イタリアンライグラスとの二毛作により飼料畑をフルに活用し、飼料収穫量は10アール当たり年間8トン(年間2.5トンのCO₂回収に相当)を目指しています。



安定した収量を確保するには、播種前に深く丁寧な耕起が重要

播種後8日目のトウモロコシ

地元関係者とレンタカウ放牧の成果を確認

－現地調査結果を報告し意見交換－

農林センター環境部及び森林部と当場の職員が、綾部市鍛冶屋町の自治会に出向き、平成18年3月から4年間取組んだレンタカウ放牧による竹林の拡大防止効果やイノシシなど野生動物が泥を浴びるヌタ場が減少するなどの獣害防止効果について報告しました。報告会に参加した約20名の地元関係者からは、「当番の時に牛を探しに行った」、「獣害防止効果をもっと期待した」などの苦労話や感想が数多く出されました。これらの貴重な意見は、今後の放牧に関する取組に反映させていきます。



地元公民館で報告会を開催



竹林で竹の子を食べるレンタカウ

畜産センター
碓高原牧場

和牛受精卵の採取がスタート

— 高品質な京都産牛肉の生産を応援します —

当场では、高品質な京都産牛肉となる黒毛和種子牛の増産を目指し、受精卵を供給しています。6月までに、黒毛和種19頭から受精卵151個（1頭当たり8個）を採取しました。採取後に凍結保存した受精卵は、農家の母牛に移植され、生まれた子牛は農家で育てられ、和牛子牛市場に出荷されます。



黒毛和種の雌牛から受精卵を採取する技術者



採取した受精卵

畜産センター
碓高原牧場

草地の景観改善で親しみのある牧場づくり

—新しい牧草が再生し、緑豊かな放牧場になりました—

当场では、地域での雇用機会を創り出す緊急雇用創出事業を活用して、放牧場の急傾斜地や放牧地の雑木などの刈払いを行い、草地の再生や良好な景観の維持に努めています。今後、牛を囲い込む牧柵などの塗装、牧草地の雑草防除などを行いより一層府民に親しまれる牧場づくりを行います。



再生した草を食む放牧牛（黒毛和種）

放牧場の雑木草を刈払うと新しい牧草が再生し、山が牧草の緑に生まれ変わります

畜産センター
碓高原牧場

知事表彰を受賞

—「環境・地域支援担当チーム」、「乳用牛育成チーム」が受賞—

6月18日、平成22年度開庁記念式典において、当センターの業績が認められ優良職員表彰を受けました。

「環境・地域支援担当チーム」は、全国的に例のない図面発注方式による低コストな畜産環境施設を府内18か所に整備し、地域の環境改善に貢献したこと、「乳用牛育成チーム」は、30年にわたり農家から導入した乳用子牛を高度な技術で育成し、また、受精卵移植技術を活用し農家所得の向上に寄与したことが評価されました。今後も得た成果・技術を農家へフィードバックすることに努めます。



畜産センター職員が提案した脱臭装置



酪農家での活躍が期待される育成牛

府民の期待に応える試験研究の推進

－農林水産技術センター評議委員会で成果を報告－

農林水産技術センターでは、府民ニーズに応えるため、外部の有識者13名により構成される評議委員会で研究成果を報告し、研究の有効性などについて、幅広い見地から意見や助言を得ています。

今回、畜産センターからは、食品製造副産物を乳牛の飼料に利用する「食品残さを家畜の飼料として有効に活用するエコフィード給与試験」について報告したところ、委員の関心は高く、普及への期待が寄せられました。



研究成果をプレゼンテーション